第 5 回土岐川庄内川流域委員会　議事要旨

日時　：平成 16 年 3 月 5 日（金）14:00～17:30

場所　：名古屋逓信会館　4F ユニオンホール

１．開会

２．挨拶（中部地方整備局 庄内川河川事務所長）

３．議事

■第 4 回土岐川庄内川流域委員会議事要旨の確認

第 4 回流域委員会議事要旨が確認されました。

■流域委員会の運営について

流域委員会にワーキンググループ(以下ＷＧ)を設ける事が出来る規約改正(第４条)が承認され、「自然環境ＷＧ」を設置することが決定しました。また次のことが確認されました。

- 規約の改正については、一部修文を行う。
- 自然環境ＷＧのメンバーについては、各委員は委員長に自薦・他薦を含めて申し込む。

■現状と課題について

土岐川庄内川の課題について、主に次のような意見を頂きました。

〔治水の課題〕

- 自治体との連携では、避難態勢、避難誘導などの減災という視点が重要である。
- 治水上危険な箇所は都市化をさせないような、河川サイドが都市計画に意見が言えるということが重要になる。
- 庄内川の破堤を防ぐ為には、(外水被害に比較して被害が小さくなると考えられる)内水被害をどの程度地域が受け入れるかという議論が必要である。
- 自治体・住民と連携してピロティー形式の家屋や各戸貯留施設などの、市民の積極的な理解と協力による流域対策が求められる。
- 住民が「自分たちの地域は自分たちの安全として守る」という姿勢が重要で、「住民と連携して目指す減災」という視点が重要である。
- 市民のイニシアチブで避難できるような使えるハザードマップをどう作成し、運用していくかが重要である。
- 川の周りはどんな地形であって、どんな歴史を持っているかを地域の人に情報発信していくことなど、環境教育に相当する流域圏教育(啓蒙)が重要である。
- 河川整備には限界があるということを理解していただく必要がある。

〔水利用と水環境から見た課題〕

・水質における排水規制の強化については、企業との連携・調整が必要である。
・水環境改善は、「住民・NPO・企業が一体となった」を「地域住民・地域企業が一体となった」という表現に変える。
・治水における貯留浸透機能の減少に考慮した地域開発のようなことが、水利用や環境保全のところにも必要で、流域環境を保全し水循環の構築につながる視点が重要である。

〔河川の自然環境から見た課題〕

・河川内に残された自然環境の保全とともに、失われた自然の再生という視点が必要である。
・植物のみではなく動物の外来種対策を課題に入れる必要がある。
・庄内川の河川空間は、都市化された流域の中で河川だけでなく流域の生態系も救う役割を担っているのではないかという視点が重要である。

〔人の関わりの面から見た課題〕

・バランスのとれた情報の交流が地域にとって重要であり、「地域に根ざした河川整備」の中に歴史という視点、家族という視点が必要である。

■地域懇談会の実施状況について

地域懇談会の実施状況を説明しました。

■行政連絡会議の実施状況について

行政連絡会議の実施状況を説明しました。

■次回の議題について

次のことが確認されました。

・第 6 回委員会の前に自然環境ＷＧを開催する。
・第 6 回委員会では、流域委員会で出された課題、自然環境ＷＧの結果、地域懇談会で出された課題、自治体の意見等を議論しとりまとめる。

４．その他

■小里川ダムについて

小里川ダムの竣工について報告しました。

■新川の整備計画検討状況について

新川の整備計画の検討状況を愛知県より報告し、次の意見を頂きました。

・庄内川と新川の関係について整理すること。

５．閉会のあいさつ（庄内川河川事務所長）

６．閉会